

内部川水系における特定外来生物「アレチウリ」の防除

1、活動の目的と経緯

近年、外来生物の移入分布が全国的にも注目され、生物多様性面からも問題視されています。中でも環境省が外来生物法で規制する特定外来生物のアレチウリ（ウリ科）は、非常に繁殖力が旺盛で、ほぼ全国に分布し河川敷をはじめ荒地で猛烈に拡大しています。この繁殖によって希少野生生物の減少や絶滅を引き起こすなど、生物多様性の喪失にも繋がっています。更に枯死した木や草・竹は自然ゴミとなって海へ流れます。このため内部地区では「伊勢湾の豊かな水資源を100年後へ繋げる」ことを目的に「アレチウリの防除」を行なっています。

三重県北勢地域でのアレチウリの確認は、1999年8月に内部川（一級河川）河川敷で見つかったのが最初と考えられます。このため、2007年に内部地区「社会福祉協議会」や「自治会」が主体となり、県下で初めて「アレチウリ防除作戦」がスタートしました。その後、この活動は『地域の重要な環境活動』となりました。



2、活動内容と成果

①活動の背景とその成果

ア) 内部地区は四日市市内で最も環境意識が高い地域で、家庭の生ゴミ堆肥化、廃食用油の再資源化、内部川清掃、ピオトープ、ホテルの里づくり、市民緑地（2箇所）など環境活動が活発です。中でも「内部川清掃」は30余年の歴史があり毎年約1200～1500名が参加します。この活動は1985年に当時の子どもたちの提案がきっかけで始まり、今日、彼らの子どもたちがアレチウリ防除に加わり、新たな環境活動（10年目）になりました。

イ) アレチウリ防除を地域主導で始めた事例は県下には無く、全国的にも長野県（信濃川・千曲川など）が行政主導でスタートした活動が知られていますが少ないようです。このことから内部地区の取組みは「先進的」ともいえます。

ウ) 地域住民や内部中学校、行政（国交省・三重県・四日市市）、企業、そして、環境分野有識者（四日市大学自然環境教育研究会）などの多くが連携して環境保全活動を行なっていることは大変意義深いことです。

エ) アレチウリ防除を継続してきたことにより、個体数は着実に減少しました。（表参照）

②環境の今

アレチウリ防除を継続してきたことにより、内部地区河川敷では希少植物のクサソテツの繁殖、ヨシ原の拡大、ヨシキリやニホンキジなどの野鳥、ハヤなどの魚類など多くが見られるようになりました。2015年12月には食物連鎖の頂点にある猛禽類（チョウゲンボウ）が確認され、かつて営巣が確認されて話題となったオオタカ以来のことです。さらに、内部川が合流する鈴鹿川河口部付近の海岸では、2014年7月にアカウミガメの産卵が“四日市ウミガメ保存会”により確認されました。

年度別「アレチウリ」推移

回	年度	参加数	駆除数	備考
1	2007	300		3エリア
2	2008	300	∞	3エリア
3	2009	340	80000	4エリア
4	2010	340	60000	4エリア
5	2011	260	50000	4エリア
6	2012	270	10000	3エリア
7	2013	210	3000	3エリア
8	2014	70	5000	4エリア
9	2015	130	6500	4エリア

※2014年の従来3エリアでは、1500株(▼98%)に減少
※2015年は1エリア拡大のため5エリア8800株であるが、上記表は従来との比較のため4エリア分を記載した

3、今後に向けて

①アレチウリ防除活動の継続

②県内各河川・流域への防除活動の拡大